

# らくだ図書館

常木らくだの小説投稿ブログ



● 常木らくだ ●

いよいよ3月になったので、すばるに送る作品を投稿完了。

実は1月の時点で準備できていたんですが、あんまり早く投稿しすぎるのも逆に不安なので、1か月ほど部屋の隅で寝かせてありました。

これねえ……。

手作りカレーのごとく、寝かせているうちに熟成されて、旨味が増したらいいんですけどねえ……。

まあ実際はそんなわけもなく、付いたものといえば、細かいホコリくらいなんですが。

それはともかく、すばる以外にも電撃やえんために送る原稿が続々と完成しているので、一週間おきくらいにポストに入れようと思います。

先日はこのラノ全滅という憂き目を見たものの、やっぱり春はやる気が出ますね。

秋から冬（9月～12月あたり）は割と締切りがバラけていて、毎月どこかの賞に細々と投稿している感じなんですが、春は4月に大きな山があるので、その分非常に燃える季節です。

そして5月以降は、燃え尽きて何も書かなくなる。

そのままウダウダしているうちに夏に突入し、ワナビ的夏の甲子園（電撃の通過発表）を迎え、9月あたりからまた執筆を再開する。

小説投稿を始めてから、そんな一年の流れです。

ああ、ちなみに。

今書いている父さん祭りは、ようやく半分ほど書けました。

この調子だと10日までには終わりそうなので、ラスト1か月でさらにもう1本仕上げられるよう、全力で頑張ろうと思います。

今日は新しいシーンを執筆せず、今まで書いた文章を見直すことに。

そしたら「思わず鼻歌がこぼれる」と書いたつもりだった箇所が、「思わず鼻息がこぼれる」になっているという、痛恨の入力ミスを発見してしまいました。

いや……。

鼻歌がこぼれる状況と、鼻息がこぼれる状況って、だいぶ違うよね……。

まあ今回は、印刷前に発見できてよかったですが。

しかし自分が気が付いていないだけで、こういう誤字脱字は実はたくさんあるんだろうと思うと、小説執筆は恐ろしいです。

というわけで、鼻息の話題からスタートした、らくだブログ。

毎日ネチネチと更新しているうちに、早くも開設から二か月が経過しました。

わーい、パチパチ！

まあ本当のことを言うと、旅行ブログの方がいまだにアクセスは多いんですが、こっちの方が記事を書くのは楽しかったりします。

だって、私はワナビだもの！

だから、投稿の話をしている時が、何より一番楽しいの！

(世界名作劇場のヒロイン風に)

まあ、あれですね。

旅行ブログは表の顔で、ワナビブログは裏の顔、みたいな。

そんなわけで、まずは「3か月毎日更新」を目指して、ひっそり頑張ろうと思います。

突然ですが、「ルルルカップ長編チャレンジ」なる賞が新設されましたね。

……小学館全滅したくせに、いまだにルルルの公式 HP をチェックしている、ストーリーワナビですが何か？

それはまあともかく、新設の賞というのは気になるので、とりあえず要項をチェック。

おおっ、希望者全員に評価シート！  
おおっ、二か月で最終結果がわかる！

これマジ良くね？  
ちょっち送りたいんですけどおー。

ここで気になるのは、ルルルの本大賞ですでに落選した作品は、投稿しちゃいけないのかどうか。

いや。  
結果は一次落ちでいいから、評価シート欲しいんですが。

そう思いつつ要項をさらに読んだら、「規定枚数 100 枚～120 枚」なので、薄々の自分の作品はどうせ送れませんでした。

しかし「800 字のあらすじ」に加え、「400 字での作品のねらい」を要求しているあたり、新しいですね。

アイリスの「作品テーマ」というのも書きにくかったですが、「400 字での作品のねらい」は、それよりさらに難しいと思います。

そんなこんなで自分は送りませんが、もし少女系を書かれる方がいらっしゃれば、チラリとご覧くださいませ。

[http://gagaga-lululu.jp/lululu/lightnovel/cup\\_l\\_oubo.html](http://gagaga-lululu.jp/lululu/lightnovel/cup_l_oubo.html)

ルルルカップの応募要項にある、「400 字での作品のねらい」。  
あまりにも気になったので、試しにザビエル様の分を書いてみました。

ちょっと長いですが、せっかく書いたので、全文を貼っておきます。  
これからルルルカップに投稿される方の、見本というか参考になれば嬉しいです。

\*\*\*\*\*

「この作品『好きです、ザビエル様っ！』は、タイトルからもわかる通り、宣教師のザビエルに萌えるための物語です。

とかくヒロイン萌え作品ばかりが刊行されている世の中なので、フランシスコ・ザビエルに萌える作品が一冊くらいあってもいいのではないかと考え、今回思いきって筆をとりました。

一番の見せ場は、物語中盤にあるザビエルの全裸入浴シーンで、その場面の描写にはかなりの自信があります。

作品の内容については、基本的には創作フィクションですが、人物像の描写が浅くならないよう、歴史書等の資料を読み込みました。

ラノベの王道からは大きく外れた設定で、そのため感情移入しにくい部分もあるかと思いますが、適度にギャグを盛り込みつつストーリーを進行させることで、読み手を飽きさせないように配慮したつもりです。

この物語を通じてザビエル萌え、ひいてはバテレン萌えの可能性が、さらに大きく広がっていくことを願っています。(396 字)」

\*\*\*\*\*

一応断っておきますが、ネタじゃありませんよ？

ネタでもウケ狙いでも何でもなく、本気でそういう作品を執筆して、スーパーダッシュに投稿した自分お疲れ様！

ええ、いいです。  
変態だと思っていただいて、一向に構いません。

ともかく「作品のねらい」は、

- ・ どういう目的でその作品を書いたのか
- ・ どういう点に注目して読んで欲しいのか
- ・ 他の作品にはない、その作品ならではのウリ

……等々を書けばいいのではないのでしょうか。

まあそんなこと言っても、自分はルルルに送りますが。

100枚に達していれば送るんですが、いかんせん、ザビエル様は80枚ですからね。  
SDで落ちて以降フリーの状態なので、この後は、冷笑覚悟で電撃に送ろうと思います。

ブログでザビエル萌えをマジ語りする自分の迷走っぷりパネェ。

……と昨日の記事を読み返して思いましたが、そうやって迷走している自分は嫌いじゃないので、削除はしない方向で。

なんか、もうね。

昔は落選するたびに毎回ショックを受けていたんですが、今は逆に、落選して落ち込んでいる自分のことが愛おしいです。

らくだ、お前は頑張ったさ……！

そう言ってくれるのはお前だけだぜ、ありがとう、らくだ……！

そんな自分大好きプレイを披露しつつ、本日の記事を。

本日は、ザビエル様の封筒詰め（電撃用）を完成させました。

まあでも、内容が内容だけに、一次落ちは覚悟済み。

ザビエル様で真面目に受賞を狙うというよりは、この作品を送ったら相手がどんな顔をするのか知りたいという、そういう好奇心の方が大きいです。

この心理は、あれだな。

担任の先生が美人だから、叱って欲しくてわざと宿題を忘れる、小学生の男子みたいな。

「バンジョーニ！ 2」を送った時も、実は結構そういう心理でした。

「激烈ワナビ戦」を送った時も、実は（以下略）

つまるところ、毎年そういう心理です。

今年も一次発表で目立てるよう、ネタの仕込みを全力で頑張ろうと思います……！

現在執筆中の「父さん祭り」が、いよいよ佳境に入って参りました。

ちなみに内容は、ファザコンの主人公とファザコンのヒロインが、自分の父さんを相手に自慢しつつ、愛情を深めていく話です。

「俺の父さん、すげーんだぜ！」

「あら、私のお父さんだってすごいわよ？」

「マジかよ？ それなら明日、この公園に父さんを連れてきて、対戦させようぜ！」

「うふふ、わかった。負けないわよ！」

父さんを召喚して戦う、ご近所異能バトル。

(父さん自身の基礎能力に、親子の信頼度がプラスされて、勝敗が決まる)

……すみません、嘘です。

実際はそんな話ではなく、ほのぼのとした家族愛の物語です。

ラノベというよりは、ジブリ系の方向性なので、電撃以外には送れなさそう。

いや、父さんバトルも、書けと言われたら喜んで書きますよ。

しかしザビエル様同様、「設定は斬新だが、読み手の需要がなく、筆者の一人舞台になっている」と言われることが目に見えているので、あえて書きません。

まあ、とにかく。

今書いている物を3月10日までに終わらせて、ラスト1か月でもう1本仕上げられるよう、最後の追い込みを頑張ろうと思います。

今がワナビの天王山だ……！



今年も花粉症の季節が、本格的に到来しましたね。

花粉症もさることながら、去年のちょうど今頃、自分は激しい胃痛に見舞われました。

もうね。

胃があまりにも痛すぎて、椅子に座ってられない。

その頃ちょうど「神父とローマ」という少女系の本を書いている、電撃に間に合うかギリギリの状態だったので、寝たり起きたりしながら必死で書いた記憶があります。

なので今でも、その話を見返すと、胃が痛かったことしか思い出せません。

それはともかく、胃痛があまりにも尋常じゃなかったため、腹部エコーと胃カメラと造影 CT スキャンを受けましたが、結果は特に異常なし。

その結果、絶対に嘘やで！

こない痛いのに、「異常なし」なはずあらへん！

そう言って医者問い詰めると、

「いや、でも検査結果は本当に、異常なしなんですよ」

「そんなはずありません！ 病名を教えてください！」

「うーん、……………花粉症？」

マジ話です。

いや、半分冗談だったのかもしれませんが、本当にそう言われました。

しかし結果が本当に異常なしなので、医者にどうにかしてもらうこともできず、一人で耐えているうちに治ったというオチ。

痛かった期間は、2月下旬～4月中旬で、ピークは3月上旬くらい。

なので確かに、バッチリ花粉症の季節ではありました。

あの激しい胃痛は、本当に花粉症だったのかなあ……。

今年は3月になっても痛くないので疑わしいですが、花粉症で胃が痛くなった経験をお持ちの方は、是非お友達になってください。

前からずっと思ってたんですけど、えんための字数指定って、少年系の方は 39 字で、ガールズの方は 42 字なんですよ。

別にいいんですけど、微妙にトリッキーな賞だと思います。

応募要項のページも、見た目そっくりだし。

ガガガとルルルくらい全然違っていれば、混乱しないんですけどね。

とまあ、それはともかく。

えんために送る原稿を先に印刷しようと思って、応募要項を先ほど改めて見直したんですが、あれ……？

え！？

規定枚数って、85 枚以上なの！？

今までずっと 80 枚だと信じ込んでいて、81 枚のワナビ戦を投稿するつもりだったのに、下限枚数に届かないじゃん！

うーん、困った……。

42 字⇒ 39 字に直したら、たぶん 1 枚か 2 枚は増えると思うけど、さすがに 4 枚は増えないよね……。

というわけなので、85 枚に乗せるべく、水増し作業をする必要が出てきました。

水増し作業というのは具体的に言うと、下の方でギリギリ終わっている文章の表現を変えることで、次の行にはみ出させて空間を消費するという、そういう貧乏くさい作業です。

幸か不幸か、次に書く題材がまだ決まっていない状態なので、今書いている父さん物が仕上がったら、気分転換にその作業をやってみようと思います。

新作の執筆が一段落したので、例の水増し作業を始めることに。

結構時間がかかりそうだと思っていたんですが、実際にやってみたら、意外とあっさり 85 枚に乗せることができました。

具体的には、

- ・ 下の方で終わっている文章を、違う表現に置き換えて、次の行にはみ出させる
- ・ 地の文が詰まっている箇所に、改行を入れる
- ・ 長い台詞を、二個に分ける

等々をやったんですが、最初から白っぽい原稿が、さらにスカスカになりました。

あはは、爽快だね！

なんか、もうね。

下の方の空いたスペースで、もう一作書けそうな感じです。

自分の場合いつも 80 枚～85 枚で長編を書くんですが、長編を短くまとめているというよりは、枚数を消費して中編を書いている感じなんですよ。

実際ワナビ戦を電撃に送った時も、「長編で書くような内容じゃないから、短編でよかったんじゃない？」とコメントされました。

せっかく書いたのに、「もっと短くていいよ」とか、地味にショックです。

その後「コトが続くようで正直ツライ」と書かれ、「ワナビという言葉が作品で使うのはどうなの？」と書かれ、「最後のオチも無理やりすぎる」と続く評価シート。

でも、ダメ出しされてる自分は嫌いじゃない、みたいな。

相手の冷笑に耐えている、恥ずかしい自分が大好き、みたいな。

そんな M 寄りブログですが、今後もよろしくお願いします。(どういまとめだ)

電撃用の新作が、ようやく完成！

前回の評価シートで指摘された悪い部分を、今回は徹底的に改善したつもりなので、今年こそ二次通過の壁を越えたいです。

……………。

「今年こそ〇〇」っていうの、死亡フラグですかね？

ちなみに、今までの電撃の総合評価は、

- 16回 「南国サンクチュアリ」 B+、B
- 17回 「バンジヨーニ！」 B、B
- 17回 「バンジヨーニ！2」 B、B-
- 18回 「激烈ワナビ戦」 B、B-
- 18回 「神父とローマ」 B、B-

初投稿の南国サンクチュアリが最高で、それ以降は完全に右肩下がりという……………。

日々精進しているつもりなのに、実際はどんどんダメになっている。  
今よりも3年前の方が、面白い話を書いていた。

そんな迷走（というか逆走）ワナビです。

あとは、あれですね。

新作もさることながら、ザビエル様の評価シートが是非読みたいので、ザビエル様には何が何でも一次通過して欲しいです。

次は電撃です、ザビエル様っ！

……書くことに困ったら、とりあえずザビエル様に呼びかける。

そんな南蛮ブログですが、今後もよろしくお願いします。（今日もそのまとめ）

板橋区が主催している、「いたばし国際絵本翻訳大賞」。

その結果が3月上旬に発表されるはずなんですが、今のところ、公式ホームページはまだ更新されていません。

うーん、先週から待ってるんだけどな……。

過去のページを見ると、毎年5日～10日に更新されているし……。

まあ今になっても連絡がない時点で、自分の入選はありえないんですが、講評を見るのが楽しみなので、明日からまた更新チェックしようと思います。

ちなみに今、「自分の乳腺はありえない」と変換されて衝撃的でした。

それはそうと、この賞ではないんですが、他の翻訳の賞の講評を見ていたら、「more organized の more を訳せていない作品が多く、残念だった」

……というコメントを発見してガクブル。

何だと！？

more を無視しただけで怒られるのか！？

自分が絵本大賞に送った訳文は、日本語に訳しにくい単語を無視したり、逆に原文にない単語を勝手に挿入したり、完全にやりたい放題してしまったので、今さらながら反省してます。

そうか……。

翻訳って、忠実にしなきゃいけないのか……。

この賞には来年も参加するつもりですが、つついマイワールドを展開したくなるワナビ根性を抑え、次回はもう少し忠実に訳してみようと思います。

次にどんな話を書くか、一人で真剣に悩み中。

うーん……。

これから書く作品が、最後の作品になるので、慎重に決めたい……。

あ、最後っていうのは、あくまで「今年の電撃に送る最後」って意味で、3月をもってワナビ卒業という意味ではありません。

そう簡単に、やめたりしねーぜ！

このブログを始める時に、「ワナビ王に俺はなる！」って、宣言しちゃったからな！

(してません)

それはそうと、一作仕上げてから選評が届くまでの時間が、もう少し早ければいいのにと本気で思います。

だって、ほら。

ワナビとして投稿生活が続けるのって、ストライクゾーンがわからないまま、投球練習を続けているような状態だと思うんですよね。

仕方なく色々な球を投げて様子を見ようにも、投げた瞬間にはストライクだったかどうかわからないから、次にどんな球を投げていいかわからない。

そして結果がわかる頃には、自分のコンディションが変わっていて、同じ球を投げられなくなっていたり。

もしくは同じコースの球を投げて、その頃にはストライクゾーンが変わっていて、あっさりボール扱いされたり。

そう考えると、小説投稿って本当に難しいですよ。

っていうか、そんな難しいことを続けてる自分、超エライじゃん！？

……と無理やり前向きにまとめつつ、次に何を書くかももう少し考えてみます。

本日、いたばし国際絵本翻訳大賞の講評が届きました。

そうか……。

公式 HP で発表する前に、郵送で結果が届くのか……。

先週からずっと F5 連打していたのは、完全に無駄な努力だったということですね。

しかしながら、講評を郵送してくれるのはいいんですが、マンション名と部屋番号の記載がないのはどういことでしょうか。

おいおい？

頼むぜえ、板橋区？

ちなみに今回だけでなく、課題が送られてきた時もマンション名と部屋番号の記載がなく、佐川急便から確認の電話がかかってきました。

(巨大なマンションなので、部屋番号がないと絶対に届かないんです)

お願いだ、板橋区……！

more を訳せてないくらいで怒るなら、マンション名と部屋番号を書いてくれ……！

ちなみに内容については、送り状+講評+入賞者一覧の計 3 枚で、受賞者 5 名と二次通過者 35 名の名前が記載されていました。

へえー、そっか。

いきなり受賞者発表かと思いきや、二次通過者の発表がちゃんとあるんだ。

まあ自分の名前は残念ながらありませんでしたが、きっと一次は通過したんだろうと勝手に妄想しつつ、次回もまたチャレンジしようと思います。

数日前から、Amazon が業務用のセメント粘土をしきりに薦めてきます。

何故だ……！？

昔は結構ナイスアシストしてくれたのに、ボケちまったのか……！？

それはそうと、4月10日まで残り一か月を切ったので、電撃用に寝かせてあった原稿をポスト投函することに。

うっし、行くぜえー！

第一陣を飾るのは、この作品しかない！

というわけで、「好きです、ザビエル様っ！」を熱烈投稿。

外へ出た瞬間いきなり雪が降ってきましたが、負けずに近所のポストに入れてきました。

というわけで、次に送る作品は……。

書いた順ということで、「CR 松竹梅」にしようかな。

今までのところ、GA で一次通過した作品は電撃でも一次通過しているので、今年もそのフラグを折らないようにしたいです。

(ちなみに、GA 後期二次落ちの評価シートは、過去2回ともGW明けでした)

しかしやっぱり、地味な松竹梅よりは、ザビエル様を応援したいのが正直なところ。

そもそもタイトルからして愛の告白だし、こんなにネタにできる 愛着の湧く作品は、そうそうないと思います。

カリスマ宣教師萌えよ、永遠なれ……！

と叫んだところで、今日は以上。

もうあまり時間がないので、早いところ次に書く作品を決めたいです。



本日は、翻訳系の話題を。

先日も書きましたが、いたばし国際絵本翻訳大賞（名前長えー）が残念ながら落選に終わったので、次はこの賞に応募してみようと思います。

第 27 回アルク翻訳大賞

<http://www.alc.co.jp/eng/hontsu/taishou/>

いたばし絵本翻訳大賞と違って、こちらは誰でも無料で投稿可能。

ただし「翻訳事典 2013（1680 円）」という雑誌に課題が掲載されているので、その雑誌を入手する必要があります。

というわけで、さっそく地元の紀伊國屋へ GO。

語学書の棚を見てもなかったのですが、検索機で探してみたら「在庫あり」の表示。

「おお、あるじゃん！」と思って詳細情報を印刷したら、

「在庫あり、梅田本店でお探し下さい」

……………。

……………梅田かい。

紀伊國屋の検索機が、そんなチート仕様だったとは、知りませんでした。

あのさあ……………。

ここは高槻店なんだから、ここになら「在庫なし」にするべきだと思うなあ……………。

まあしかし、ないものは仕方ないので、次回梅田へ行った時に購入しようと思います。

Amazon からゆうメールで送られてくる、CD や DVD。

これがものすごく微妙な大きさと、無理やりポスト投函していく配達員と、わざわざ玄関まで持ってきてくれる配達員と、半々くらいなんですよね。

うーん……。

できればポストに入れて欲しいなあ……。

曲げずに持ってきてくれる親切心は嬉しいんですが、常時家にいるわけでもないし、CD や DVD ってそういう曲がらないですからね。

よし！

次に配達員が来たら、こう言おう！

「壊れないように、気をつけてくれたんだよね？  
わざわざ優しくしてくれて、本当にありがとう。  
でも次からは、無理やり入れて構わないから……！」

震える声で、伏せ目がちに。

しかしご近所さんにその場面を見られたら、変態だと誤解されるのでやめておきます。

いや、まあ。

誤解ではなく、実際に変態なんですけど。

それはともかく、3月も半分終わったのに次に書く作品が決まってないので、電撃に新作をもう1本送るのは無理かもしれません。

しかし、今ある作品群だけでは心もとないので、20枚程度の短編になるかもしれませんが、とりあえずもう1本書こうと思います。

皆様、こんにちは。

ブログの仕様を何点か変更したので、まとめてお知らせ致します。

【1】スマホ版で表示されていた「最近の写真」欄を消しました。

だって……。

ラクダチョコの画像がずっと表示されるのも、邪魔ですよね……。

携帯版・スマホ版については、本当は上下の広告も消したいんですが、こちらは残念ながら非表示にできません。

ちなみに自分のアフィリエイトではないので、クリックするとシーサーブログの収入になります。

PC版は、広告をゼロにできて助かるんですけどね。

【2】小説投稿歴に、作品名と簡単な内容を追加しました。

投稿歴の記事は、プロフィールの「投稿歴はコチラ」からリンクしています。

または、「ご挨拶」カテゴリからも閲覧できます。

こうして並べて見ると、イタリアの話とキリスト教関連の話がほとんどですね。

そうでないのは、ワナビ戦と松竹梅くらいだ……。

【3】今さらながら、ツイッター始めました。

[http://twitter.com/rakuda\\_tsuneki](http://twitter.com/rakuda_tsuneki)

三日坊主っぷりがヒドイですが、非公開制限等は特にありませんので、フォローやコメントお待ちしております。

以上です。

今後も「らくだ図書館」をよろしくお願い致します。

一迅社の新人賞が、少年系・少女系ともにリニューアルされましたね。

先程新しい要項を見てきましたが、

「一迅社文庫 New Generation Award 2012」

・募集締切から発表までの期間が短縮！

よかった……。

まず最初にそう言うってことは、遅い自覚はちゃんとあったんだ……。

あまりにも突き抜けた遅さなので、一迅社本人(?)は、自分の遅さを知らないのかと思ってました。

ちなみに「8月末締切り」⇒「2月末受賞者発表」なので、途中経過はこんな感じ？

8月末 締切り

11月末 一次発表

12月末 二次発表

2月末 受賞者発表

あくまで個人的な予想ですが、これなら普通の新人賞並みですよ。

自分の場合、ガガガとMFJは何を送っても絶対に通過しないので、夏に書いた作品は思い切って一迅社に出してみようかな、と思います。

いや、思い切っても何も、すでに少女系の方には出していますが。

しかし少女系についても、自分の作風はルルルに嫌われているようなので、夏に書いた作品は一迅社アイリスに投稿しようかな、と。

まあ当分先の話ですが、この夏～秋の投稿先は、一迅社⇒SD⇒GAになりそうです。

しばらく休んでいましたが、昨日の夜から、ようやく執筆を再開しました。

うっし、書くぜえ！

今回は、あえて王道ファンタジーに挑戦だ！

ちなみに、電撃まで残り3週間というこの時期に、わざわざ時間がかかりそうなジャンルに手を出すのは、自分が迷走系ドMワナビだからです。

いや、嘘です。

締切りまで時間の少ないこの時期に、あえて苦手分野に挑戦することで、自分の地力を高めようという作戦です。

それにしても、まだ冒頭を書いただけですが、ファンタジーって難しい……。

何が難しいって、背景描写が難しい。

背景描写が難しいというか、背景描写をどの程度書くかが、ものすごく難しい。

例えば現代学園物であれば、普通に「学校の教室」と書いただけで、読み手は学校の教室をイメージしてくれると思います。

しかしファンタジー作品となると、身近には存在しない世界なので、一から状況を説明しなきゃいけない。

その部分をあまりサラッと流しすぎると、

「設定や背景の説明が不足しており、物語の世界に入り込むことができません」

かといって、あまり丁寧に書きすぎると、

「文章が設定語りになっていて、生きたストーリーが書けていません」

……………。

評価シートの内容が、送る前から想像できる。

まあしかし、こればかりは習うよりも慣れだと思うので、ひとまず一作完成させてみようと思います。

2日前に書き始めた、冒険物ファンタジー。

ようやくプロローグが終わって、最初のバトルシーンを書くことに。

しかし……。

バトル描写って難しい……。

自分は執筆歴3年のワナビですが、こうして改めて考えてみると、今までちゃんとしたバトルを書いたことがありませんでした。

「なんちゃって異能バトル」なら書いたことあるけど、

- ・ 魔物を呼び出して戦わせるから、本人が弱くても魔物の力で勝てる
- ・ 仮に負けても、本人は無傷
- ・ 戦う相手はクラスメート

という、小学生のカードバトル並みの戦いだったので。

しかし今回はそうではなく、ちゃんとキャラ本人が武器を持って戦うバトルなので、改めて難しいなあと感じています。

これも昨日ここに書いた背景描写と一緒に、バトル描写そのものが難しいというより、どの程度書き込むかが難しいと思う。

あまりサラッと書くとバトルの緊張感が出せないし、かといって地の文をみっちり使って説明すると、読むのが大変になって逆に緊張感が出ないという……。

まあ、これも慣れですかね。

……何か今ちょっと、センター試験前にひらがなドリルを解いているような気分になってきましたが、基本は大事と自分に言い聞かせながら頑張ってみます。

本日は、ワナビ的妄想記事。

ふと思ったんですが、新人賞の通過発表や結果発表が、受験の合格発表みたいだったら面白いと思いませんか？

公式 HP や雑誌発表ではなく、本社前に、通過者一覧が貼り出されるっていう。  
結果を知るには、そこまで見に行くしかなく、全国のワナビが集結するっていう。

そうすると、発表当日は、文字通り「祭り」になると思うんですよね。

雄叫びをあげる人。

その場で泣き崩れる人。

ツイッターに速報を書き込む人。

電話で田舎の両親に報告する(?)人。

きっと悲喜こもごもの熱いドラマが生まれて、甲子園並みに感動できる、真夏の一大イベントになると思います。

もしそうなった場合、最寄駅から会場へ向かう道は、ワナビロードという通称で呼ばれることでしょう。

発表の日にその道を歩いていたら、「ああ、あいつはワナビだな」みたいな。

そこで一生のワナビ友達ができたり、ワナビを騙そうとするセールスマンを一緒に撃退したり、絶対に面白いことが起きると思います。

何かもう、その設定だけで1本書けそうですね。

今日は以上です。

執筆に集中できないので、どうでもいい妄想に走ってみました。

1日に5,000字書いたら、1週間で35,000字。

1日に5,000字書いたら、2週間で70,000字。

1日に5,000字書いたら、3週間で105,000字。

つまるところ、電撃の締切り3週間前に書き始めたこの作品は、確実に仕上がるフラグ。

という計算を1時間置きにしている、常木らくだのブログへようこそ。

(どんな歓迎だ)

いやー、それにしてもギリギリだ……。

去年のこの時期は胃痛で完全に休んでいたんで、電撃に送る作品をこんなに頑張って間に合わせようとしているのは、挑戦4年目にして今回が初めてかもしれません。

実際のところ、自分の作品は文章少なめで改行も多いので、長編でも70,000字くらいに収まるんですが。だから計算通りに進んだら、2週間で1本仕上がるはずなんです。

それでも冒頭に書いたのは計算上の話なので、油断できないことは事実です。

5,000字は平均であって、実際はほとんど進まないような日もあるわけだし。

っていうか、今この記事を書いている、4年目であることに自分で衝撃を受けた。

そうか……。

自分ももう、ワナビ4年生か……。

1年目や2年目の頃は、落ちても「初心者だし！」と言い逃れできたけど、4年目ともなってしまうと、テヘペロでは済まされないプレッシャーを感じます。

まあでも、いいか！

4年や5年なんて、まだまだ若い！

1万年と2000年たっても、ワナビを続ける覚悟だからな！

そんなわけで、あと20日弱ですが、最後まで頑張ろうと思います。



投稿生活 4 年目となった今は、落選しても、テヘペロでは済まされない。

……と昨日書きましたが、それなら、どうすれば済むんでしょう？

土下座か？

土下座したらええのんか？

というわけで、もし今回の電撃で一次落ちしたら、自分で自分に土下座します。

そしてその様子をセルフタイマーで撮影して、撮れた写真をブログに掲載しようと思います。(どんな羞恥プレイ)

それはさておき、ワナビ界というのは、ある点で特殊だと思うんですよね。

たとえば部活や会社であれば、長く続けている人が、一般的に偉いじゃないですか。「あの人は〇年も続けているのか。よし、自分も……！」って思うじゃないですか。

けどワナビの場合、あまり長く続けていると、逆に肩身が狭くなるっていう。「ぶっ、コイツまだ投稿してらあ。いまだに受賞できねーのかよ？」っていう。

それでも 10 年くらい続けたら、逆に尊敬を集められるのかもしれませんが、4 年や 5 年って一番中途半端だと思います。

ワナビという理由で、世間から見下される。

評価シートで酷評されて、編集者からも見下される。

挙げ句の果てには、同じワナビ仲間からも見下される。

なんて素敵に三重苦。

まあでも、そんな理由で小説書きをやめるわけにもいかないの、いっそワナビ仙人を目指して書き続けようと思います。

少し前にご紹介した、第 27 回アルク翻訳大賞。

その課題文が載っている「翻訳事典 2013」を、本日ようやく入手しました。

ちなみに募集部門は下記 3 つで、大賞の賞金は各 10 万円らしいです。

・ 字幕翻訳 / 出版翻訳 / 実務翻訳

さっそく課題文を確認してみましたが、3 部門ともそれほど量はなく、それぞれ 1 ページに収まっています。

実務翻訳がやや長いですが、それでもセンター試験で出題される長文よりもちょっと長いくらいなので、十分に翻訳できそうな範囲です。

へっ、短すぎて物足りねえぜ……！

文庫本 1 冊分の文章を毎月書いている、ワナビをナメんなよ……！

ちなみに部門が 3 つありますが、一番面白そうなのは、字数制限のある字幕翻訳。

映画の字幕の場合、パッと見て理解できる量に限界があるので、使える文字数があらかじめ決められています。

例えば、

Hello, Doctor. (5)

こんな風に英文の後ろに数字があって、この文章の場合は、5 文字以内で翻訳しなきゃいけない。

それから映画の台詞だけあって、キャラの口調にも違いを出さないといけないので、何と言うかものすごくワナビ心を掻き立てられます。

そういうわけで、電撃の締切りが無事に過ぎたら、次はこの賞にチャレンジしてみようと思います。

王道ファンタジー作品を、引き続き執筆中。

今のところ、ノルマ分は毎日書けているので、半分くらい仕上がりました。

この前の GA 後期は、本当に締切り前日の 11 月 29 日まで作業をしていたので、それに比べたら余裕はありそうな感じです。

トナー、よし！

コピー紙、よし！

封筒と切手、よし！

いざという時に備えて、備品の指差し確認もバッチリ。

しかし今回の作品は、一番お気に入りのキャラが最後の章でようやく出てくるので、そこに辿り着くまでが長いです。

いやまあ、そんなに好きなら、最初から出せばいいんですが。

しかしストーリーの都合上、冒険がある程度進んだ後にしか出せないという。

これは、あれだな。

ドラクエ 6 の、テリーのようなポジションだ。

冒険が 4 分の 3 以上終わったところでやっと出てきて、しかも敵。

倒したらなんか仲間になったけど、残っているのはラストダンジョンのみで、全然一緒に戦えないまま冒険終了。

焦らしすぎで、本番は短かった。

そんなテリーが、大好きです。

……というドラクエ話はまあともかく、3 月中に完成させることを第一目標にして、今週も頑張って書こうと思います。

アクセスした瞬間、89,000 円の脱毛器を堂々と薦めてくる Amazon。

いや……。

脱毛器のページを開いたこともないし、検索したこともないんだけどなあ……。

それとも、これはアレでしょうか。

誰かがこっそり常木らくだのアカウントを使って、高額な脱毛器や業務用セメントを購入しているのでしょうか。

それはそうと、今執筆している部分が、いまいち波に乗りません。

そう思って、途中の章を飛ばしてテリー（仮名）が仲間になるシーンを書いたら、ものすごい勢いで筆が進みました。

それで思ったんですが、執筆が波に乗らない場合は、書きたい部分から書くのも手だなあ、と。

自分の場合、ワナビ初期の頃はそういう書き方をしていたんですが、最近はそれをやめて順番に書くようにしていたんですね。

後ろを先に書いてしまうと、整合性を取るために、後々直す必要が出てくるので。

ただどうしても波に乗れない場合は、たとえ後から直す必要が出るとしても、すでに頭の中で完成しているシーンを書くのもいいと思いました。

ゴールや通過点がわかっている方が、途中のペース配分もしやすいですからね。

そんなわけで、4月10日まで、残りあと15日。

来週末の兄の引っ越しの手伝いを断って、ひたすら電撃用の執筆に専念することにしたので、薄情者扱いされたことを無駄にしないように頑張ろうと思います。

本日は、締切りギリギリの状況で、原稿を間に合わせる裏技をご紹介します。

この最終手段を使えば、間に合うこと間違いなし！

手順は簡単、以下の3ステップです。

1. 封筒を用意する
2. 宛名を書く
3. 切手を貼る

以上です。

先に切手を貼ってしまえば、390円を無駄にするのがもったいないから、完成させて送らざるを得ない。

ちなみに2のステップを省略すると、いざ間に合わなかった時に他の賞の宛名を書いて使えるので、先に宛名を書いてしまうことがコツです。

しかしながら、この最終手段を使っても、間に合わないことはあります。

自分も実際にありました。

そしてその時は、慎重に切手を剥がして、他の賞に送るのに使いました。

つまりこれは、最終手段でも何でもありません。

いや……。

こんな記事を「執筆の心得」カテゴリに分類するのは詐欺のような気もしますが、そうでもしないと、雑談カテゴリばかり増えていくので……。

そんなわけで、今日は以上です。

落ちぶれたワナビブログですが、今後もよろしくお願いします。

今日は、中国の思い出話を。

北京に住んでいた時、市場で帽子を買ったら、タグに小さく「本当の日本製」と書かれていたことがあります。

いや……。

そんな、偽の日本製がある前提で話されても……。

これだから中国製……いや、本当に日本製なんですかね。

何しろわざわざ、「本当の」と念を押すくらいなんですから。

そうだ、信じよう！

信じればきっと、夢は叶うんだ！

そう思って毎日被っていたら、一か月後に破れて穴が開きました。

これだから中国製……いや、日本製でも品質の悪い帽子はあるよね！

あの帽子は本当に日本製だったんだと、今でもそう信じています。

もう一つ、同系統のネタ。

北京のスーパーで靴下を探していたら、こんな売り文句が書かれた靴下を発見。

「おそらく中国で一番いい靴下」

……………。

「おそらく」って、何なんだよ！

「中国で一番いい」って、堂々と言い切れよ！

しかし、そんな思わせ振りのことを言われたら、逆にすごく気になってしまいます。

そういうわけで買って履いてみたら、一回洗濯しただけであっさり破れました。

嘘つきー！！！！

いや、でも「おそらく」ってことは、100%ではないってことだから、そういう意味では嘘つきじゃないのか……？

そんなある意味哲学的な靴下は、北京地下鉄13号線「知春路」駅前にある、ウォルマートで売られていま

した。

今もあるかはわかりませんが、春休みに北京へ旅行に行かれる方は、お土産にいかがでしょうか。

先日のザビエル様に引き続き、「CR 松竹梅」を電撃に投稿完了。

ちなみに「CR 松竹梅」は、頭に CR とついてますが、パチンコとは関係ありません。

妙なタイトルをつけておいて、中身を読んだら、その言葉は全然違う意味だった。  
そんな風に、タイトルで遊ぶのが大好きです。

まあ「好きです、ザビエル様っ！」は、本当にザビエルが好きな話ですけどね。  
幸か不幸か、その部分は嘘じゃありません。

それはそうと、新作の執筆状況。

一応ラストまで書けたは書けたんですが、序盤のバトルシーンがどうも上手く機能していないような気がするので、その章だけ最初から書き直そうと思います。

削除するのはもったいないけど、自分で読み直しても、どこかイマイチな感じなので。

なんかね。

小説でバトルを書くのって、特殊な難しさがあると思う。

たとえば映画や漫画だったら、詳しい状況がわからなくても、アクションシーンの派手さで観客を惹きつけることができるじゃないですか。

実際のところ、バトルやアクションシーンから始まる映画も多いし。

だけど小説の場合、どういう人間がどういう心境で戦っているのかを明確にしないと、バトル描写に興味を持ってもらえないと思うんですよね。

誰が何のために戦っているのかわからないまま、いきなり壮大な戦いの場面を描写しても、「どっちが勝ってもいいよ」になっちゃうわけで。

そういうわけなので、最初の章のバトル部分は消して、何か他の展開を考えてみます。  
幸いまだ一週間以上あるから、きっといい案が出てくるはずだ……！



昨日消した部分、どうしようかな。

こんばんは、常木らくだです。

迷っているうちにタイムアウトで、今日は結局1行も進みませんでした。

第2章以降の内容には割と満足してるんですが、それゆえ第1章の弱さが気になってしまい、冒頭部分を直すことにしたのは昨日書いた通り。

しかし、冒頭は書きにくい……。

最初からテリーがいてくれたら、たぶんもっと書きやすいのに……。

とはいえ、最初から登場しておまけに味方だったら、テリーがテリーである意味がありません。

冒険が終わりかけの段階でようやく出てきて、しかも仲間になった後も心を許してない感じが、テリーの最大の良さであって。

そう考えると、テリーのポジションって、ベジータに通じるものがありますね。

でもまあそういう自分は、悟空派でもベジータ派でもなく、フリーザ派です。

(そっちな)

ベジータは結果的に仲間になったのに、何故フリーザはならなかったんだ……！

見た目か！？

見た目が理由か！？

……と脱線しまくりでしたが、とにかく第1章だけ書けていないという変な状態になっているので、早いところ代替案を見つけて完成させたいです。

明日こそは、頑張るぞ！

3月31日ということで、気が付けばもう年度末。

本日締切りの賞も多かったと思いますが、投稿された皆様は良い結果が出ることを祈りつつ、来年度もお互いさらに精進するべく頑張りましょう。

Yes、ワナビ生活！

ちなみに自分は、前にも一度書きましたが、3月末のすばるに送りました。

一般エンタメに作品を投稿するのは、正直言って野球ユニフォームで舞踏会へ行くような気分ですが（場違いという意味で）、ワナビたる者チャレンジあるのみ。

いつ頃どんな方法で発表があるのかわかりませんが、野性時代同様、あまり期待せず気長に待とうと思います。

そんなこんなで、新作の執筆状況。

序盤にあったバトル部分を、カネを盗むエピソードに変更したら、じっくり書けそうな雰囲気になりました。

バトル⇒盗みということで、罪深さは上がってますが、これでいこうと思います。

しかし最初のバトル自体が丸々なかったことになってしまうので、それに伴い、第2章以降の細かい部分を直す必要が出てきました。

特に伏線とまではいかないものの、その部分を前提にしゃべっている台詞とかがあるので、そういう台詞を消して直さないと……。

まあでも、案が出なくて苦しむよりは、直す部分が多くて苦しむ方がいいですね。

幸いまだ10日あるので、気持ちの余裕を失わずに、取り組みたいと思います。